

馬獣医療実態調査

【報告書】

2020年 2月 7日

目次

調査概要	P3
Summary	P5

◆属性【GT表】

飼育馬施設の住所地／回答者区分	P7
飼育管理者の性別・年代	P8
飼育馬の種類	P9
飼育場の品種	P10
過去1年間の用途／飼育場の種類	P11

◆調査結果詳細【クロス表】

飼育馬の導入元	P13
飼育馬の年齢把握	P14
飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の認知度	P15
飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の把握方法	P16
衛生管理区域の設定方法	P17
衛生管理区域に病原体を持ち込まないための実施策	P18
野生動物による病原体侵入防止実施対策	P19
馬の異常の把握方法	P20
衛生対策の相談者	P21
飼育馬の状態異常に気づくとき	P22
異常症状、疾病罹患に気づくとき	P23
飼育馬の疾病罹患時の対処法	P24
馬の疾病等予防対策の相談者	P25
馬の疾病予防実施対策	P26
馬インフルエンザワクチン予防接種について	P27
馬インフルエンザワクチン接種費用・助成の有無	P28
馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）の検討度	P29
馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）費用・助成の有無	P30
講習会等で希望する予防管理情報	P31
馬の飼養管理に必要な診断方法と予防対策等	P32

I . 調査概要

調査概要

調査目的	<p>我が国の馬は、多様な形態で飼育されている。</p> <p>しかし、馬インフルエンザ等の伝染病は、馬の種類に関係なく共通して感染することから、本会では馬感染症の予防対策の一環として、「馬インフルエンザワクチン接種費の一部助成」「馬飼養衛生管理技術等の講習会の開催」や「馬の健康手帳の無償配布」を実施し、馬飼育者の飼養衛生管理を向上させたいと考えている。</p> <p>今回、これら予防対策をより効果的なものとするため、馬獣医療実態調査を実施する。</p>
調査手法	<p>郵送調査 (各都道府県、畜産団体等を通じて、対象者に協力依頼文書及びアンケートに協力を願い調査を行う)</p>
対象者条件	全国の馬飼育管理者
回収数	●馬飼育管理者：746サンプル
調査期間	2019年10月1日(火)～12月20日(金)
備考	※報告書スコア n=30未満は参考値として、グレーハッチング

II .Summary

● 予防情報は9割が把握し、衛生管理区域は8割が設定している。

- ➡ 飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の把握は、**88%が何らかの方法で把握**しており、「最寄りの家畜保健衛生所からの提供情報」が最も高く51%。
- ➡ 衛生管理区域の設定は、**84%が何かしら区分**しており、設定方法は「建物で区別している」が最も高く66%、衛生管理区域に「飼養倉庫を含める」58%、不用意に立ち入らないよう「立て看板等を設置している」40%が続く。また、使用している敷料は「わら以外の麦桿等（38%）」の方が「わら（25%）」より高い。

● 病原体を持ち込まない実施対策は「出入口での対策」が上位 病原体の侵入防止は「飲用水の対策」が高く、「診療獣医師」に相談している。

- ➡ 病原体を持ち込まないための対策は、「**手指を洗浄できる設備・器具を設置**」45%が最も高く、野生動物による病原体侵入防止の対策は、「**外部からの異物が混入のない飲用水を使用する**」71%が特に高い。
- ➡ 衛生管理区域等の**衛生対策、疾病等予防対策の相談**は「診療獣医師」が特に高く、それぞれ「衛生対策」では52%、「疾病等予防対策」では78%に達する。また、**疾病罹患時の対処法**も「すぐ診療獣医師に依頼する」が62%で高く、「**診療獣医師**」に対する**重要性が伺える**。

● 「馬インフルエンザワクチン予防接種」は「全頭に実施」が6割弱、対して、「馬鼻肺炎ワクチン接種の検討」は1割弱にとどまる。

- ➡ 「馬インフルエンザワクチン予防接種」は、「**予防接種を全頭に実施している**」が57%、「一部の馬に実施している」7%。また、実施しているなかで「ワクチン接種費の助成を受けている」は29%。
- ➡ 「馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）」の検討は、「**繁殖牝馬の全頭に接種したい**」が8%にとどまる。
- ➡ 馬の飼養衛生管理に関する講習会等では、「**馬の飼養管理の情報に関すること**」が66%で最も高い。

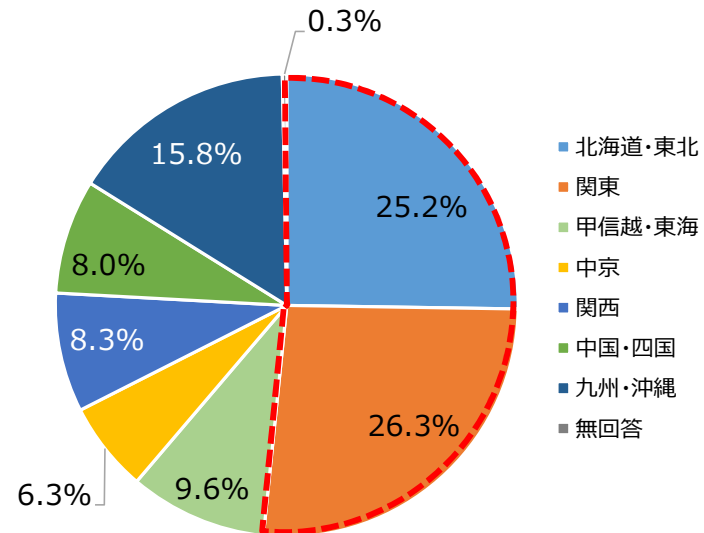
Ⅲ.属性

飼育馬施設の住所地／回答者区分

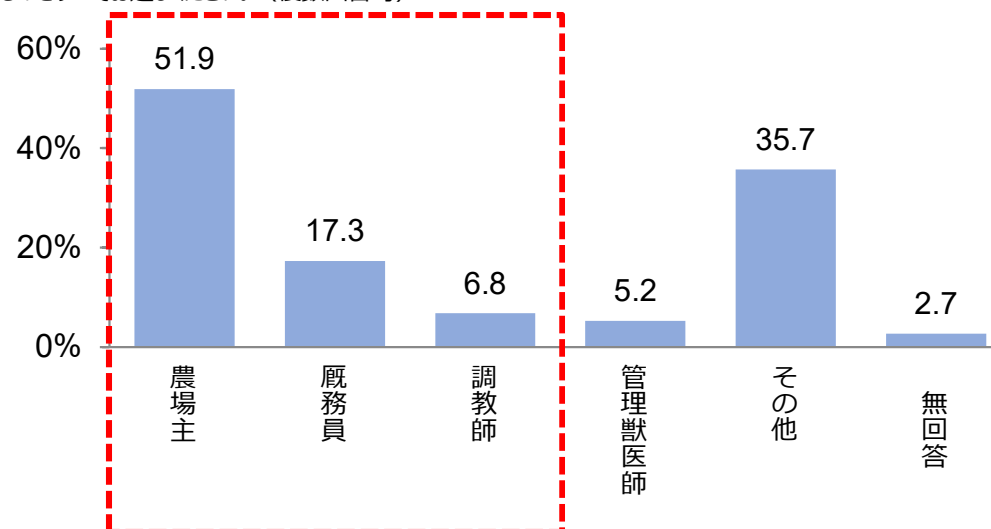
- 飼育場施設の住所地は「関東」26.3%、「北海道・東北」25.2%が多く、「関東」「北海道・東北」で半数を占める。
- 回答者区分は、「農場主」が最も多く51.9%、「厩務員」17.3%、「調教師」6.8%が続く。

n=746 (単位：%)

Q1-1. 飼育馬施設の住所地を記入してください。(1つ選択)



Q1-2. ご回答される方の「役職」であてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)



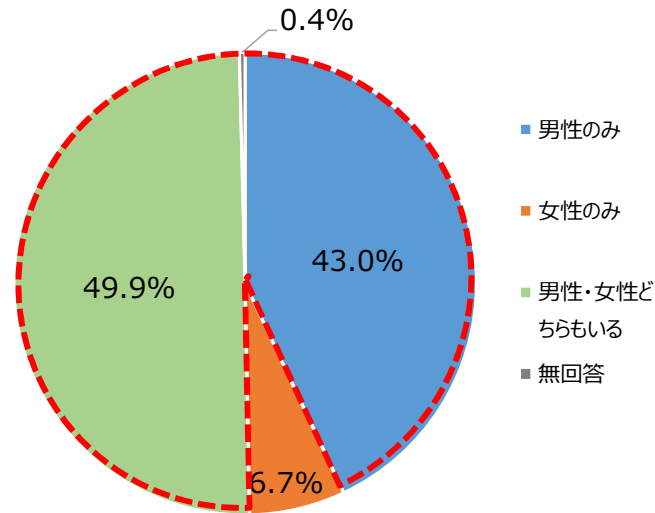
※「管理獣医師」のみは、全体746人中29人と少ないため、調査結果の傾向に大きな影響はない

飼育管理者の性別・年代

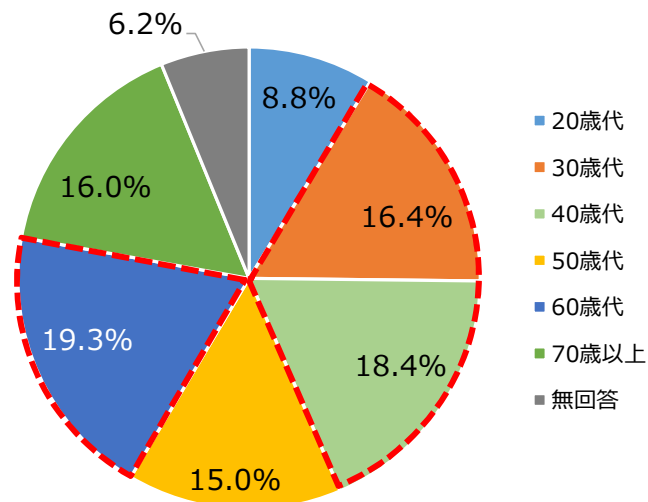
- 飼育管理者の性別は、「男性・女性どちらもある」49.9%、「男性のみ」43.0%となり、女性に対し男性の割合が多いことが伺える。
- 飼育管理者の年齢は、「60歳代」が最も多く19.3%で、次いで「40歳代」18.4%、「30歳代」16.4%が続く。

n=746 (単位 : %)

Q1-3. あなたの飼育馬施設の主な飼育管理者の「性別」であてはまるものをお選びください。(1つ選択)



Q1-4. あなたの飼育馬施設の主な飼育管理者の「年齢」であてはまるものをすべてお選びください。(1つ選択)

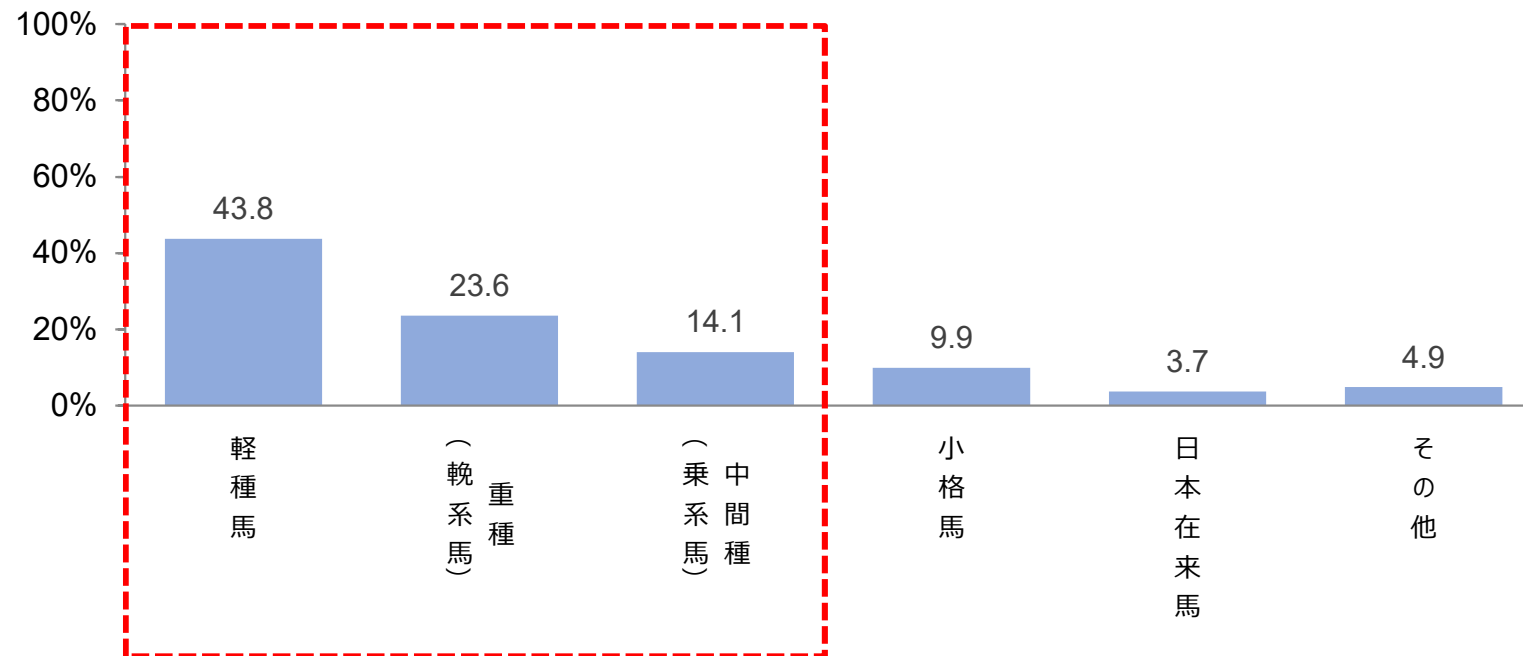


飼育馬の種類

➤ 飼育馬の種類は、「軽種馬」が最も多く43.8%。次いで「重種（輓系馬）」23.6%、「中間種（乗系馬）」14.1%が続く。

n=13,271（頭数ベース）（単位：%）

Q2-1. 【1】あなたの飼育馬の種類について、あてはまる種類をすべてお選びください。（複数回答可）



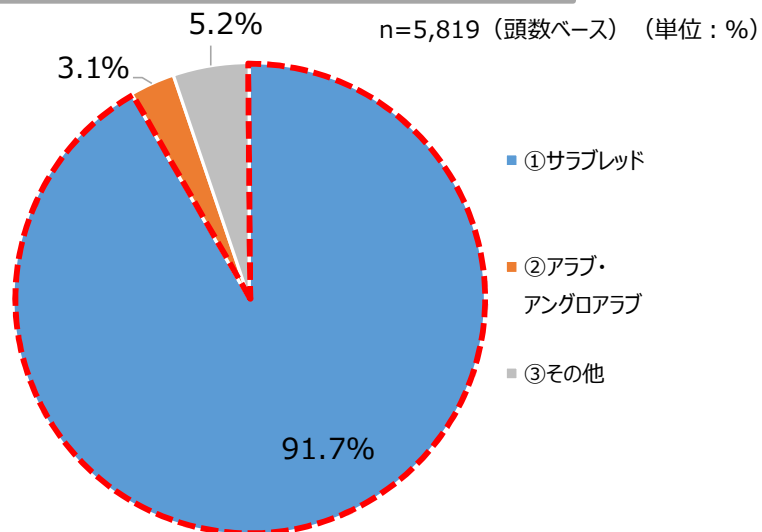
飼育場の品種

- 【軽種馬】は、「サラブレッド」が最も多く91.7%で大半を占める。
- 【重種（輓系馬）】は、「ベルジャン」が最も多く31.0%、次いで「ブルトン」5.8%が続く。
- 【小格馬】は、「シェトランドポニー」が最も多く33.2%、次いで「ミニチュアホース」22.1%が続く。
- 【日本在来馬】は、「北海道和種」が最も多く66.0%、次いで「トカラ馬」15.6%、「木曽馬」15.2%が続く。

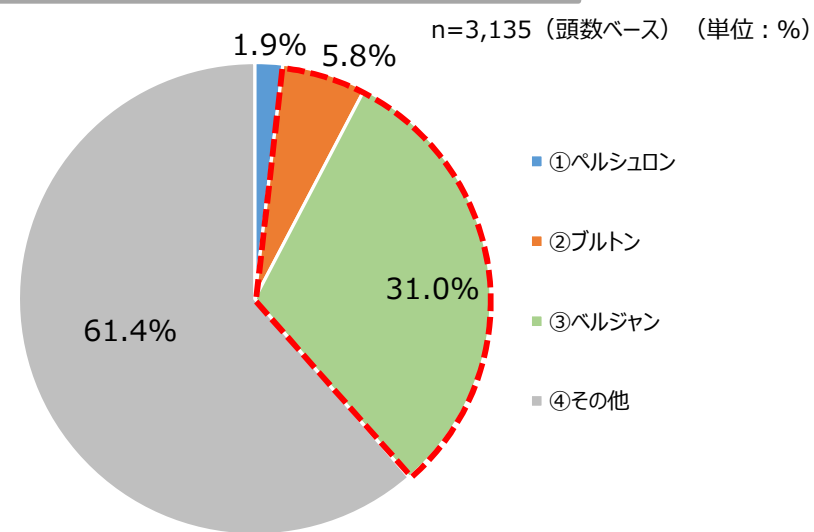
Q2-1. 【2】あなたの飼育馬の品種別頭数について、すべてご記入してください。（頭数を数字でご記入下さい）

※複数品種カテゴリのみ掲載

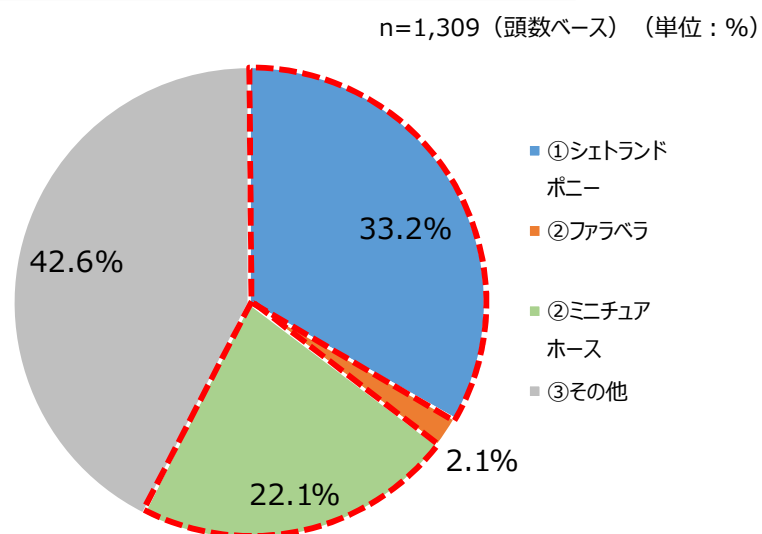
【軽種馬】



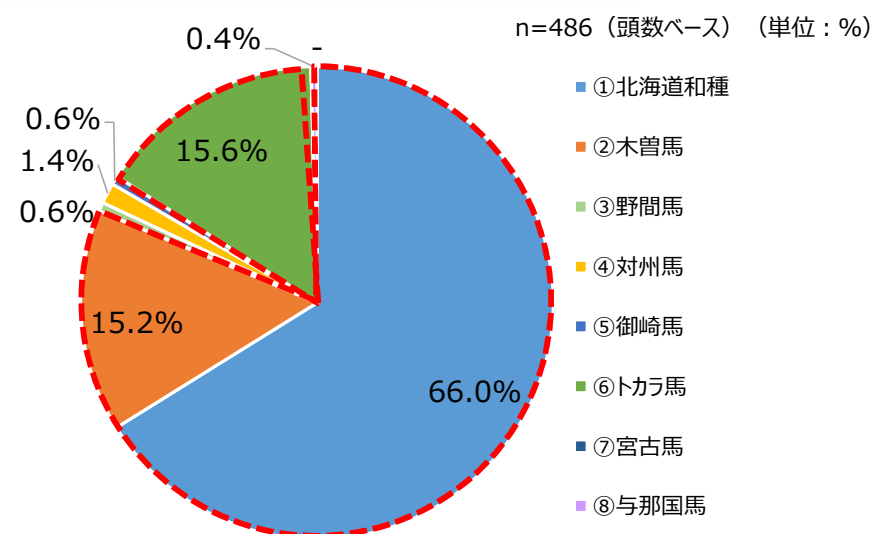
【重種（輓系馬）】



【小格馬（ポニー）】



【日本在来馬】

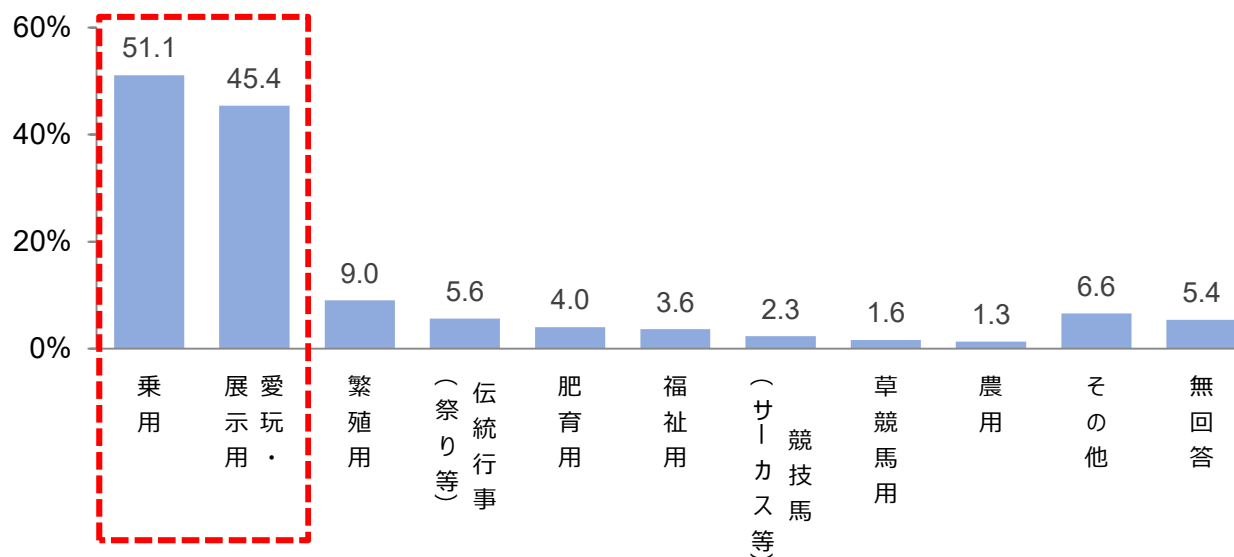


過去1年間の用途／飼育場の種類

- 過去1年間の飼育馬の用途は、「乗用」51.1%、「愛玩・展示用」45.4%が多く、他を大きく上回る。
- 飼育馬の種類は、『愛玩・展示用』の「小格馬（ポニー）」78.5%が特に高く、次いで『乗用』の「軽種馬」66.7%、「中間種(乗系馬)」59.8%が多く5割以上に達する。

n=746 (単位：%)

Q2-1. 【3】過去1年間における飼育馬の用途をお教えてください。（複数回答可）



Q2-1. 【4】用途別の種類

(単位：%)

	n数	軽種馬	中間種(乗系馬)	重種(鞍系馬)	小格馬(ポニー)	日本在来馬	その他	無回答
乗用	381	66.7	59.8	3.1	35.2	13.4	5.8	3.1
愛玩・展示用	339	7.7	6.2	1.5	78.5	8.8	5.3	6.8
草競馬用	12	16.7	-	25.0	50.0	-	-	8.3
福祉用	27	7.4	22.2	-	77.8	37.0	3.7	3.7
農用	10	10.0	-	50.0	10.0	10.0	10.0	10.0
肥育用	30	16.7	3.3	46.7	13.3	23.3	3.3	13.3
繁殖用	67	16.4	14.9	29.9	26.9	4.5	4.5	16.4
伝統行事（祭り等）	42	38.1	19.0	16.7	19.0	19.0	2.4	16.7
競技馬（サーカス等）	17	64.7	41.2	-	11.8	-	17.6	-
その他	49	40.8	14.3	12.2	26.5	12.2	10.2	12.2

※ nが30未満の時は参考値

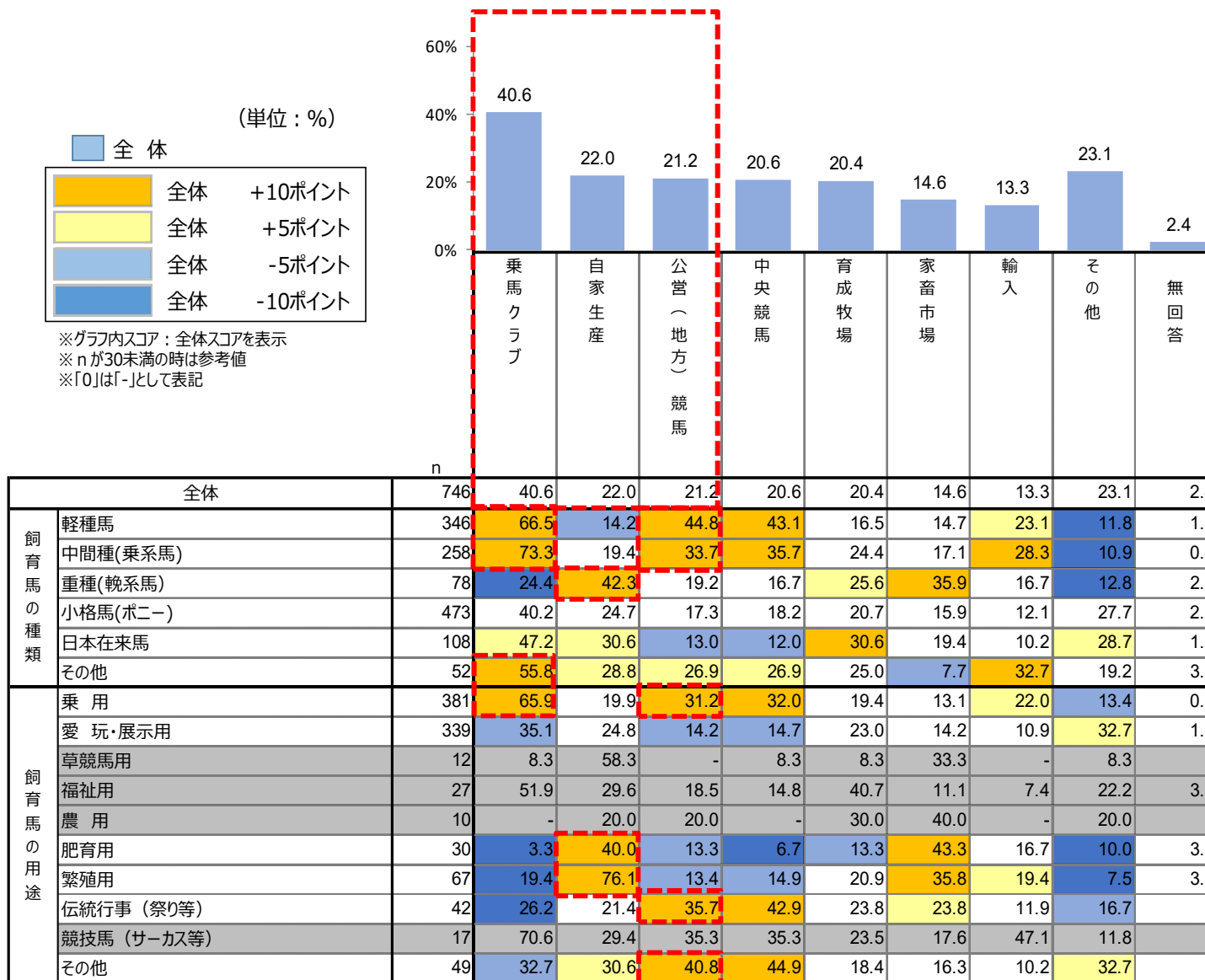
IV. 調査結果詳細

飼育馬の導入元

- 飼育馬の導入元は「乗馬クラブ」が最も多く40.6%。次いで「自家生産」22.0%、「公営（地方）競馬」21.2%が続く。
- 種類別でみると、「乗馬クラブ」は『軽種馬』『中間種』『その他』、「自家生産」は『重種』、「公営競馬」では『軽種馬』『中間種』が高い。
- 用途別でみると、「乗馬クラブ」は『乗用』、「自家生産」は『肥育用』『繁殖用』、「公営競馬」は『乗用』『伝統行事』『その他』が高い。

n=全体（単位：％）

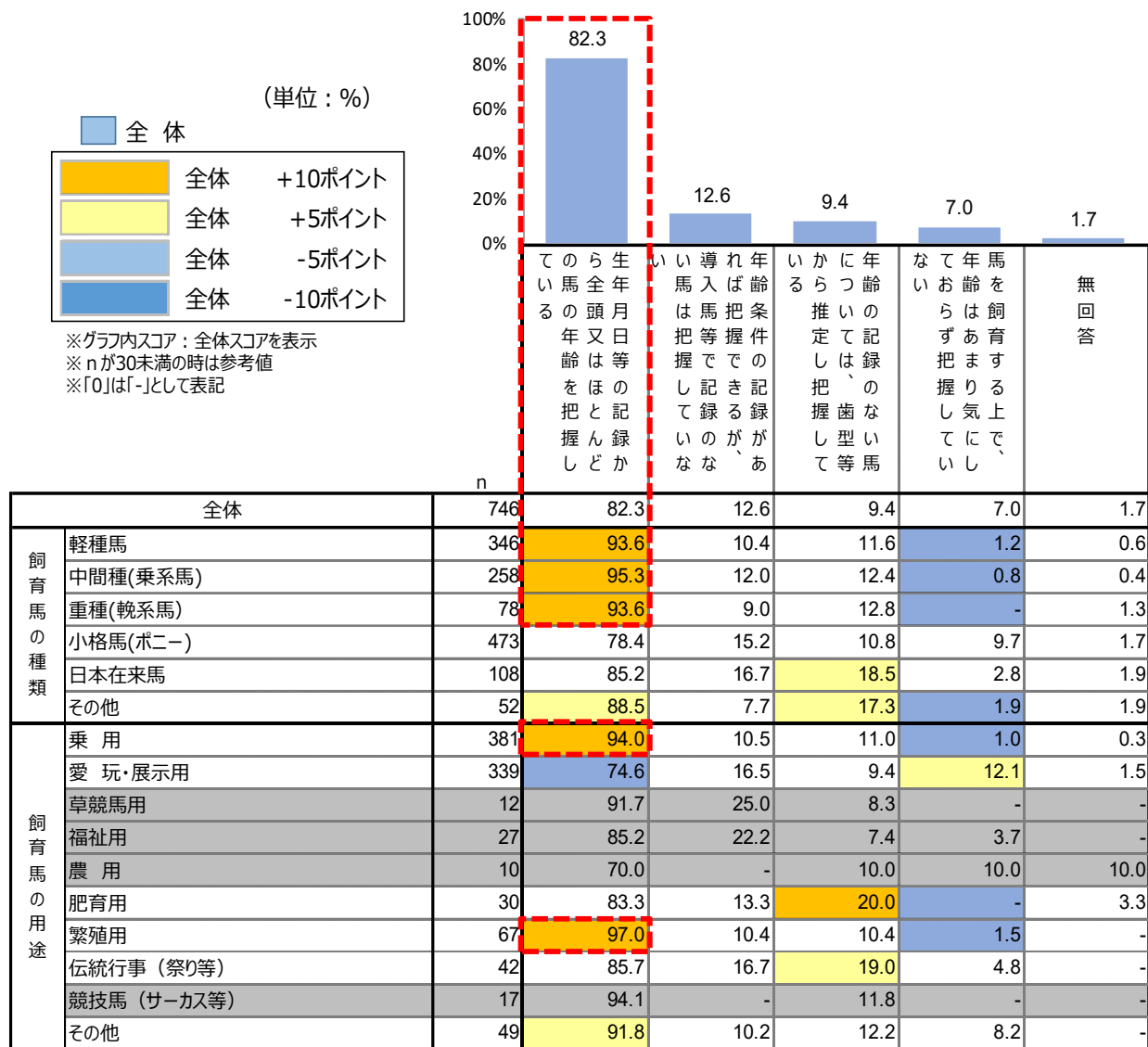
Q2-2. あなたの飼育馬の導入元について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）



飼育馬の年齢把握

- 飼育馬の年齢把握は、「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」82.3%が群を抜いて高い。
- 種別・用途別でみると、「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」は、種別で『軽種馬』『中間種』『重種』、用途で『乗用』『繁殖用』が高く、全体を10pt以上上回る。

Q2-3. あなたの飼育馬の年齢の把握について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

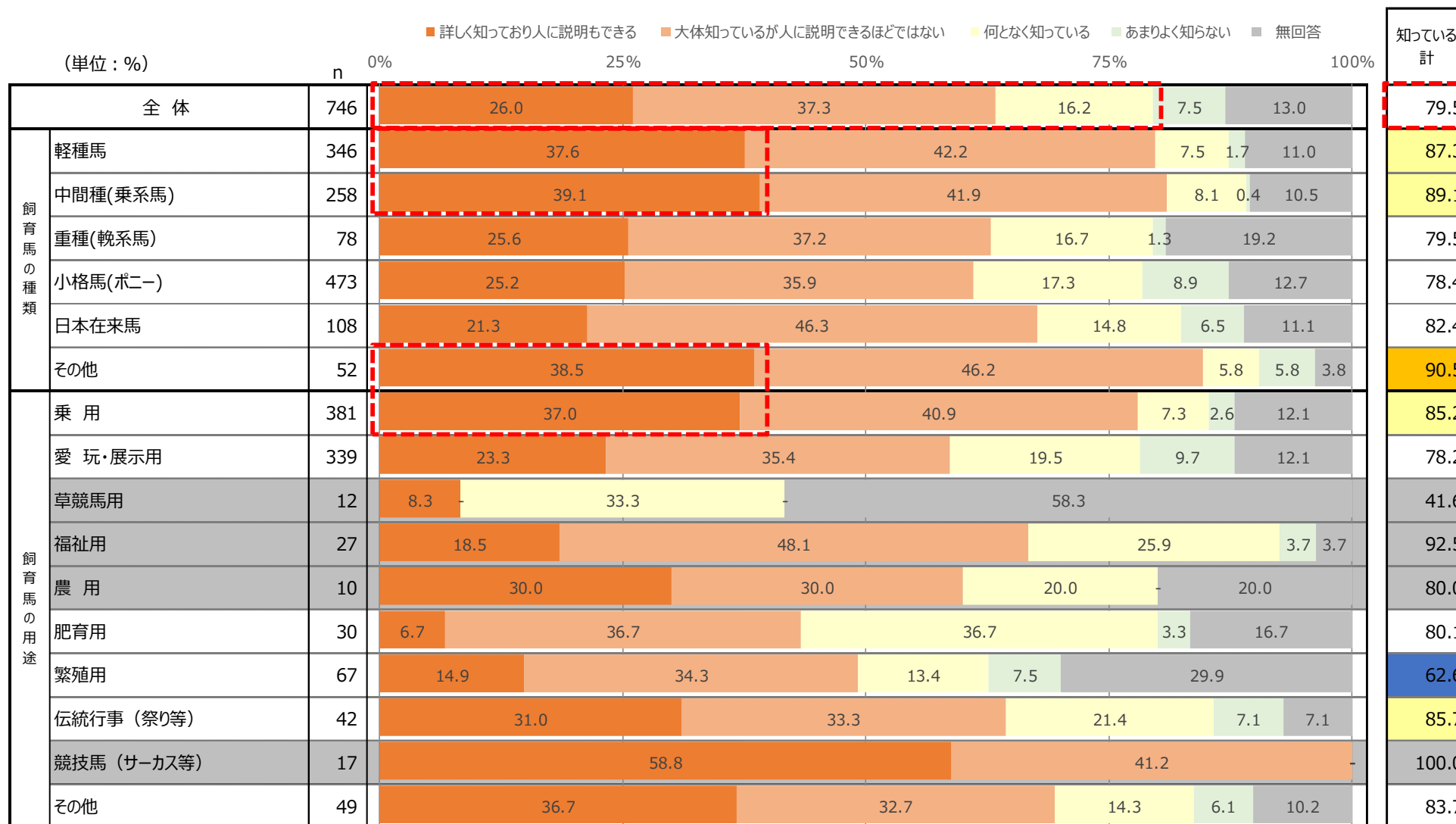


飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の認知度

- 馬インフルエンザ等伝染性疾病等の予防情報について、「詳しく知っており人に説明もできる」26.0%、「大体知っているが人に説明できるほどではない」37.3%、「何となく知っている」16.2%となり、「レベルに限らず何かしら知っている（知っている計）」は79.5%と8割程を占める。
- 「詳しく知っており人に説明もできる」について、種類別・用途別でみると、種類では『軽種馬』『中間種(乗系馬)』『その他』、用途では『乗用』が高く、全体より10pt以上上回る。

※ n=全体（単位：%）

Q3-1-1. あなたが馬を飼育する上で、特に馬インフルエンザ等伝染性疾病等の予防情報等について、どの程度ご存知ですか。あてはまるものをお選びください。（1つ選択）



※全体比10pt以上を■、5pt以上を■、5pt以下を■、10pt以下を■で表記 ※nが30未満の時は参考値 ※「0」は「-」として表記

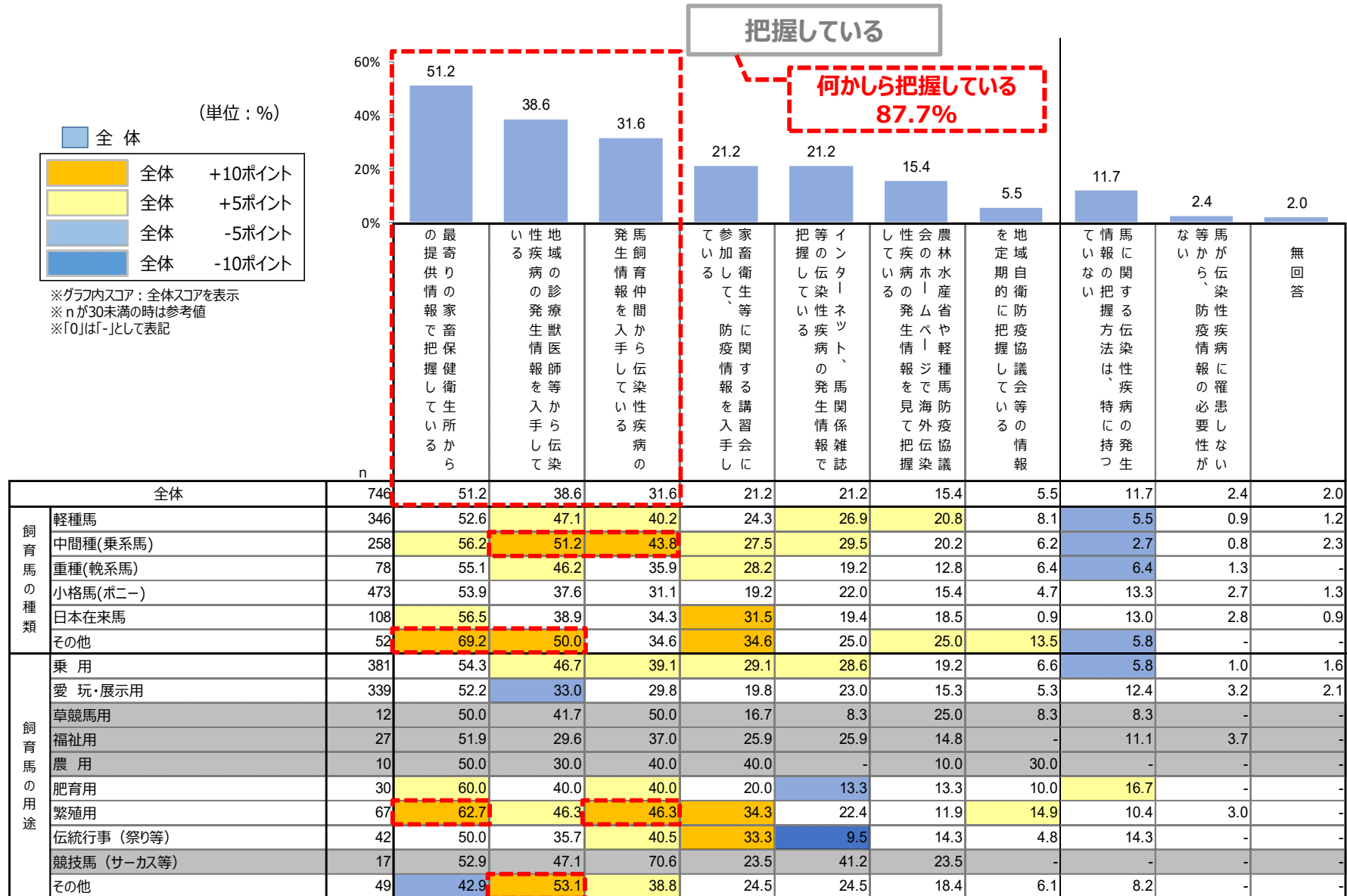
※知っている計：「詳しく知っており人に説明もできる」+「大体知っているが人に説明できるほどではない」+「何となく知っている」

飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の把握方法

- 飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の把握方法は、「最寄りの家畜保健衛生所からの提供情報」が最も多く51.2%、次いで「地域の診療獣医師等」38.6%、「馬飼育仲間」31.6%が続く。
- 種別・用途別でみると、「最寄りの家畜保健衛生所からの提供情報」は『種類・その他』『繁殖用』、「地域の診療獣医師等」は『中間種』『種類・その他』『用途・その他』、「馬飼育仲間」は『中間種』『繁殖用』が高く、全体より10pt以上上回る。

※ n=全体 (単位: %)

Q3-1-2. あなたが馬を飼育する上で、特に馬インフルエンザ等伝染性疾病等の予防情報等について、どのように把握していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)

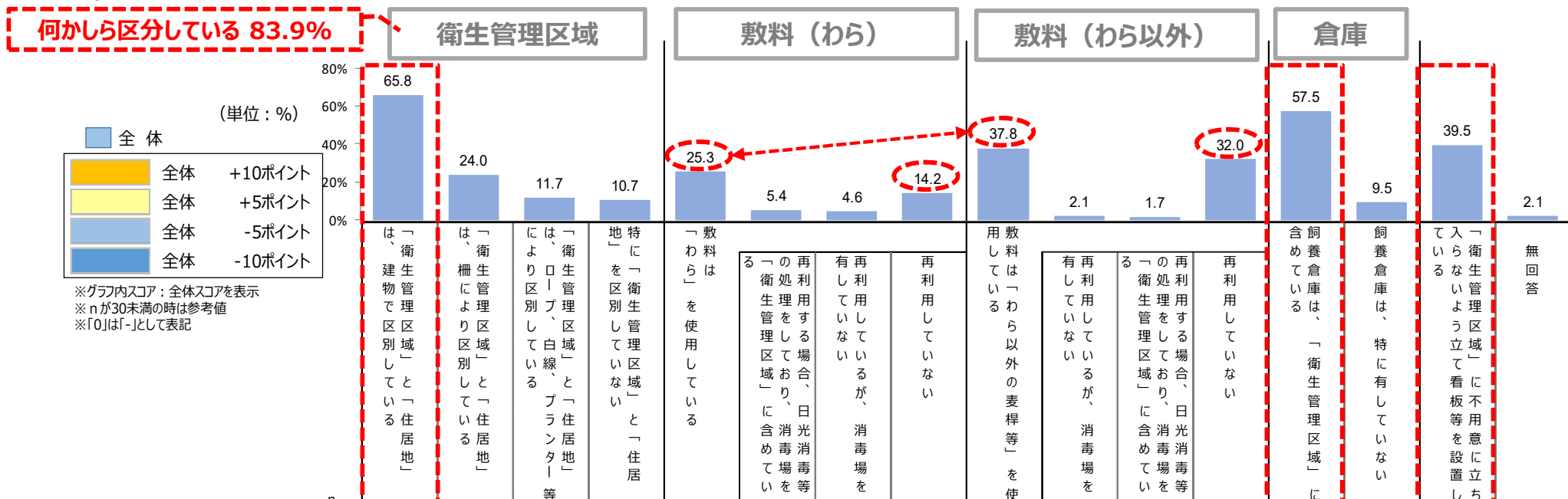


衛生管理区域の設定方法

- 衛生管理区域の設定方法は「建物で区別している」が65.8%で最多。「飼養倉庫は衛生管理区域に含めている」57.5%、「不用意に立ち入らないよう立て看板等を設置」が39.5%が続く。
- 敷料は「わら以外の麦稈等（37.8%）」の方が「わら（25.3%）」の使用より高く、再利用についてはどちらも「再利用していない」が最も高い。

※ n=全体（単位：%）

Q3-2-1. あなたは「衛生管理区域」の設定について、どのように区分けしていますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）



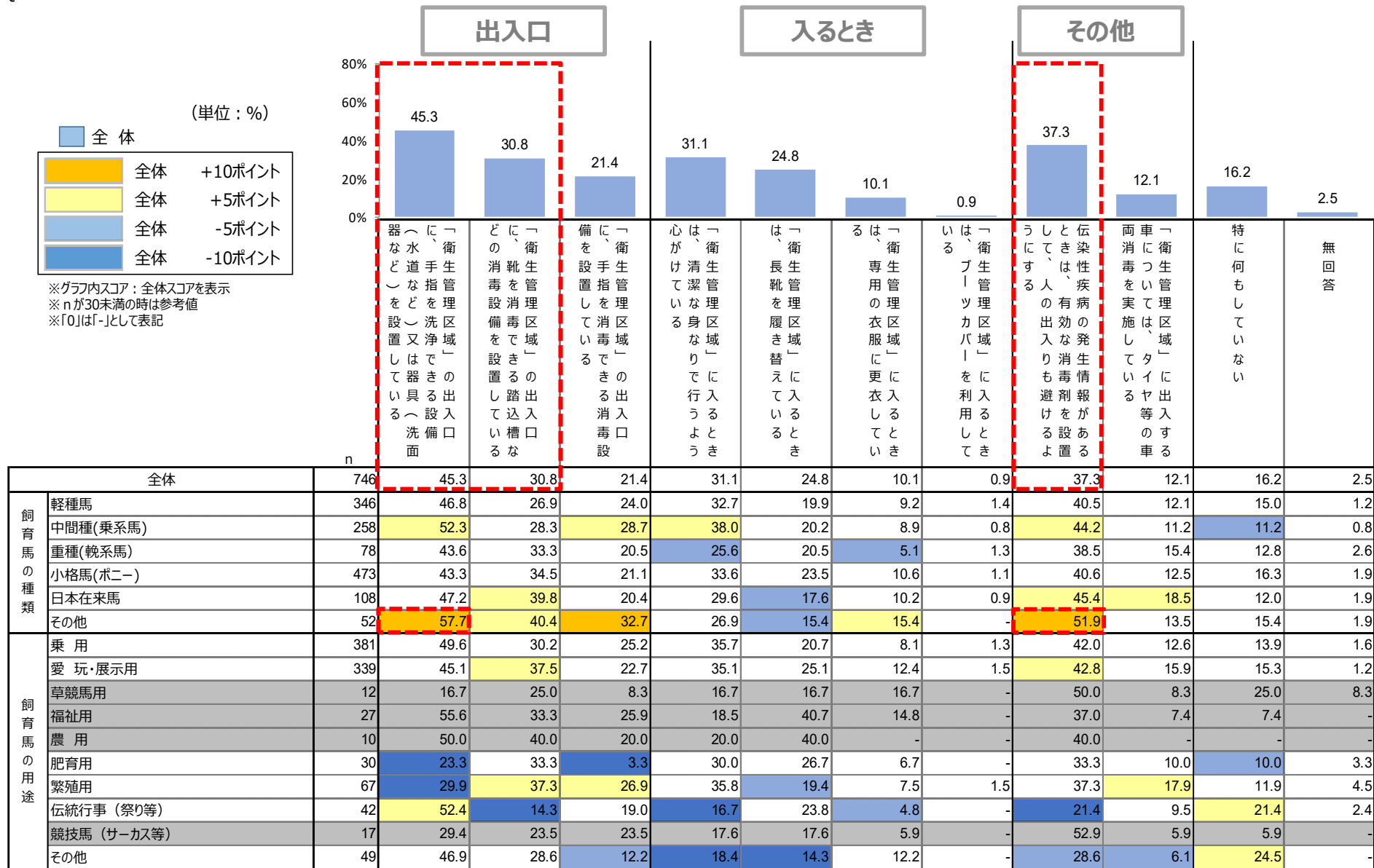
全体		746	65.8	24.0	11.7	10.7	25.3	5.4	4.6	14.2	37.8	2.1	1.7	32.0	57.5	9.5	39.5	2.1
飼育馬の種類	軽種馬	346	71.1	18.5	13.6	11.0	19.1	6.9	4.9	6.4	45.7	0.9	1.7	41.0	66.2	8.1	42.2	0.6
	中間種(乗系馬)	258	70.5	20.5	12.8	12.0	15.9	5.4	2.7	8.1	44.2	2.7	1.6	39.1	72.1	5.4	48.4	-
	重種(鞍系馬)	78	66.7	14.1	10.3	11.5	42.3	6.4	10.3	20.5	29.5	1.3	2.6	24.4	51.3	10.3	46.2	1.3
	小格馬(ポニー)	473	64.1	24.7	11.8	10.8	22.8	3.8	4.2	14.0	37.8	2.1	2.1	31.3	58.6	8.7	41.6	1.9
	日本在来馬	108	63.0	25.9	15.7	6.5	29.6	7.4	4.6	14.8	33.3	1.9	3.7	27.8	68.5	7.4	46.3	-
	その他	52	71.2	25.0	11.5	5.8	21.2	7.7	-	11.5	48.1	1.9	5.8	36.5	69.2	5.8	46.2	3.8
飼育馬の用途	乗用	381	68.5	23.1	14.2	11.3	18.9	6.6	3.7	8.4	44.4	1.8	1.6	39.6	68.0	8.7	41.2	0.3
	愛玩・展示用	339	60.2	30.4	10.6	10.0	26.8	5.0	4.4	16.5	36.0	2.4	2.1	28.3	59.3	8.8	42.5	1.5
	草競馬用	12	83.3	8.3	-	16.7	41.7	8.3	8.3	16.7	25.0	-	8.3	16.7	16.7	16.7	33.3	-
	福祉用	27	85.2	25.9	7.4	3.7	18.5	7.4	-	11.1	55.6	7.4	-	48.1	66.7	7.4	44.4	-
	農用	10	70.0	20.0	10.0	10.0	40.0	-	10.0	20.0	10.0	-	-	10.0	30.0	10.0	70.0	-
	肥育用	30	70.0	13.3	10.0	13.3	40.0	3.3	13.3	20.0	36.7	3.3	6.7	26.7	43.3	13.3	50.0	-
	繁殖用	67	65.7	16.4	16.4	11.9	44.8	7.5	10.4	19.4	17.9	1.5	3.0	13.4	49.3	10.4	38.8	3.0
	伝統行事(祭り等)	42	76.2	16.7	11.9	7.1	42.9	9.5	2.4	28.6	38.1	-	4.8	28.6	45.2	9.5	31.0	2.4
	競技馬(サーカス等)	17	76.5	5.9	-	17.6	17.6	5.9	-	5.9	41.2	-	-	35.3	64.7	11.8	35.3	-
	その他	49	61.2	22.4	20.4	10.2	32.7	10.2	10.2	16.3	34.7	-	-	30.6	57.1	12.2	36.7	2.0

衛生管理区域に病原体を持ち込まないための実施策

- 衛生管理区域に病原体を持ち込まないための実施策は「手指を洗浄できる設備又は器具を設置」が最も多く45.3%、「伝染性疾患の発生情報があるときは有効な消毒剤を設置して人の出入りも避ける」が37.3%、「靴を消毒できる踏込槽などの消毒設備を設置」30.8%が続く。
- 種類別・用途別でみると「手指を洗浄できる設備又は器具を設置」「伝染性疾患の発生情報があるときは有効な消毒剤を設置して人の出入りも避ける」とも『種類・その他』が高く全体を10pt以上上回る。

※ n=全体 (単位: %)

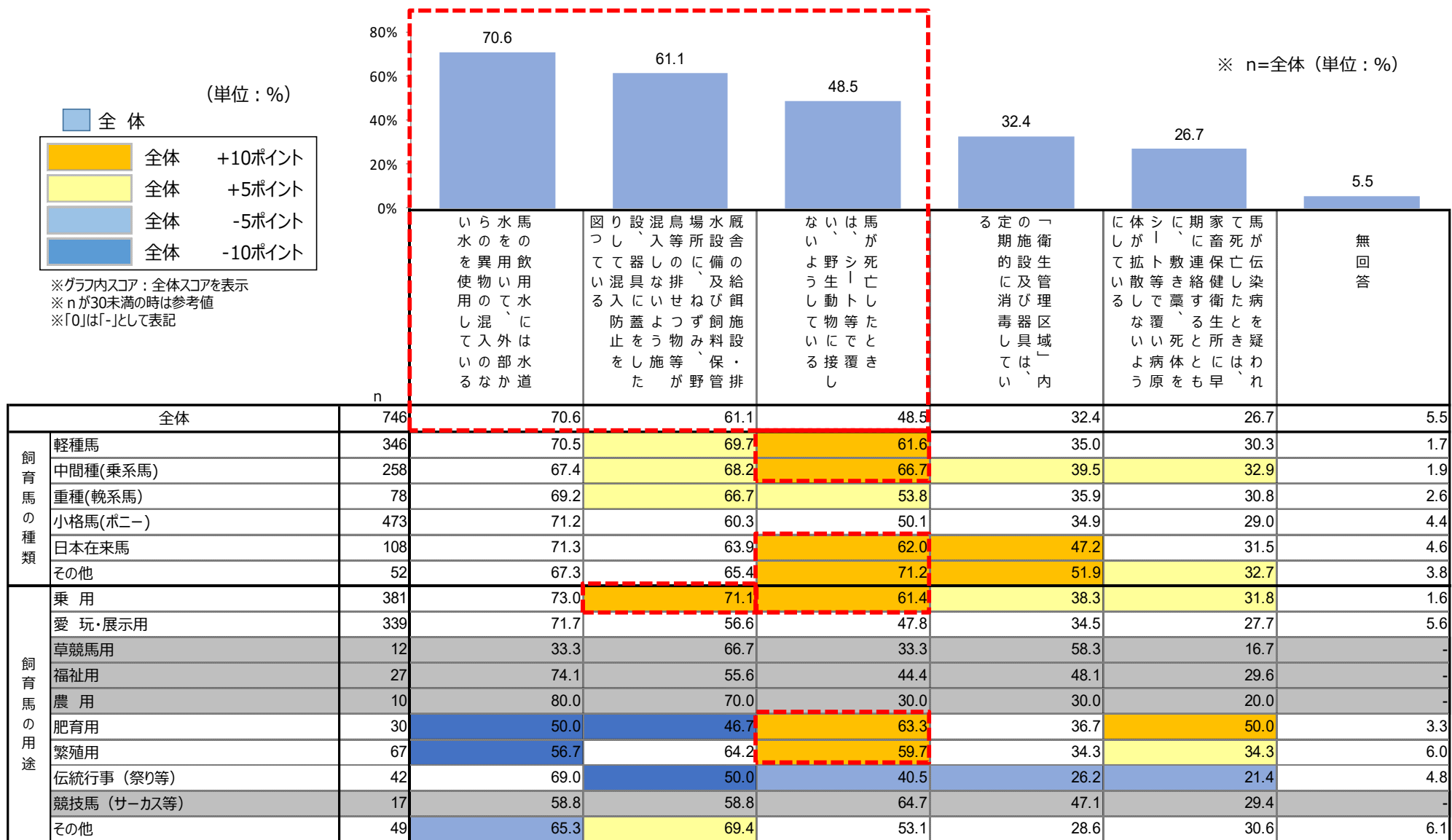
Q3-2-2. あなたは、「衛生管理区域」に病原体を持ち込まないようにするため、どのようなことを実施していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)



野生動物による病原体侵入防止実施対策

- ▶ 野生動物による病原体侵入防止実施対策としては、「外部からの異物の混入のない水を使用」が70.6%で最多。次いで「器具に蓋をしたりして混入防止を図っている」61.1%、「馬が死亡したときはシート等で覆う」48.5%が続く。
- ▶ 種類別・用途別でみると「器具に蓋をしたりして混入防止を図っている」は『乗用』、「馬が死亡したときはシート等で覆う」は種類で『軽種馬』『中間種』『日本在来馬』『その他』、用途で『乗用』『肥育用』『繁殖用』が高く全体を10pt以上上回る。

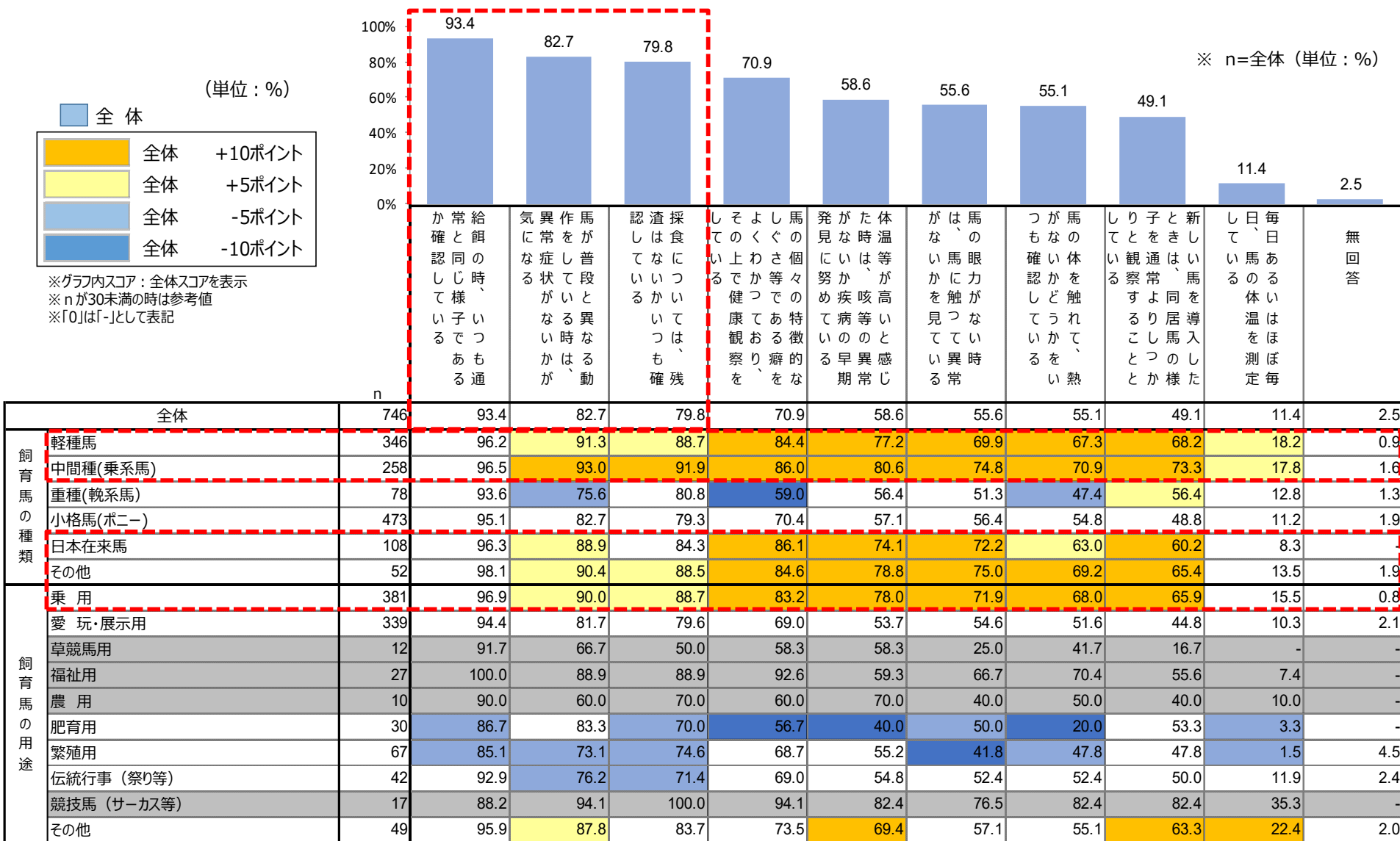
Q3-2-3. あなたは、野生動物による「衛生管理区域」への病原体の侵入防止対策として、どのようなことを実施していますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）



馬の異常の把握方法

- 馬の異常の把握方法は「給餌の時」が最も多く93.4%。次いで「馬が普段と異なる動作をしている時」82.7%、「採食時の残渣」79.8%が続く。
- 種類別・用途別でみると、『軽種馬』『中間種』『日本在来馬』『種類・その他』『乗用』で高い項目が多くみられる。

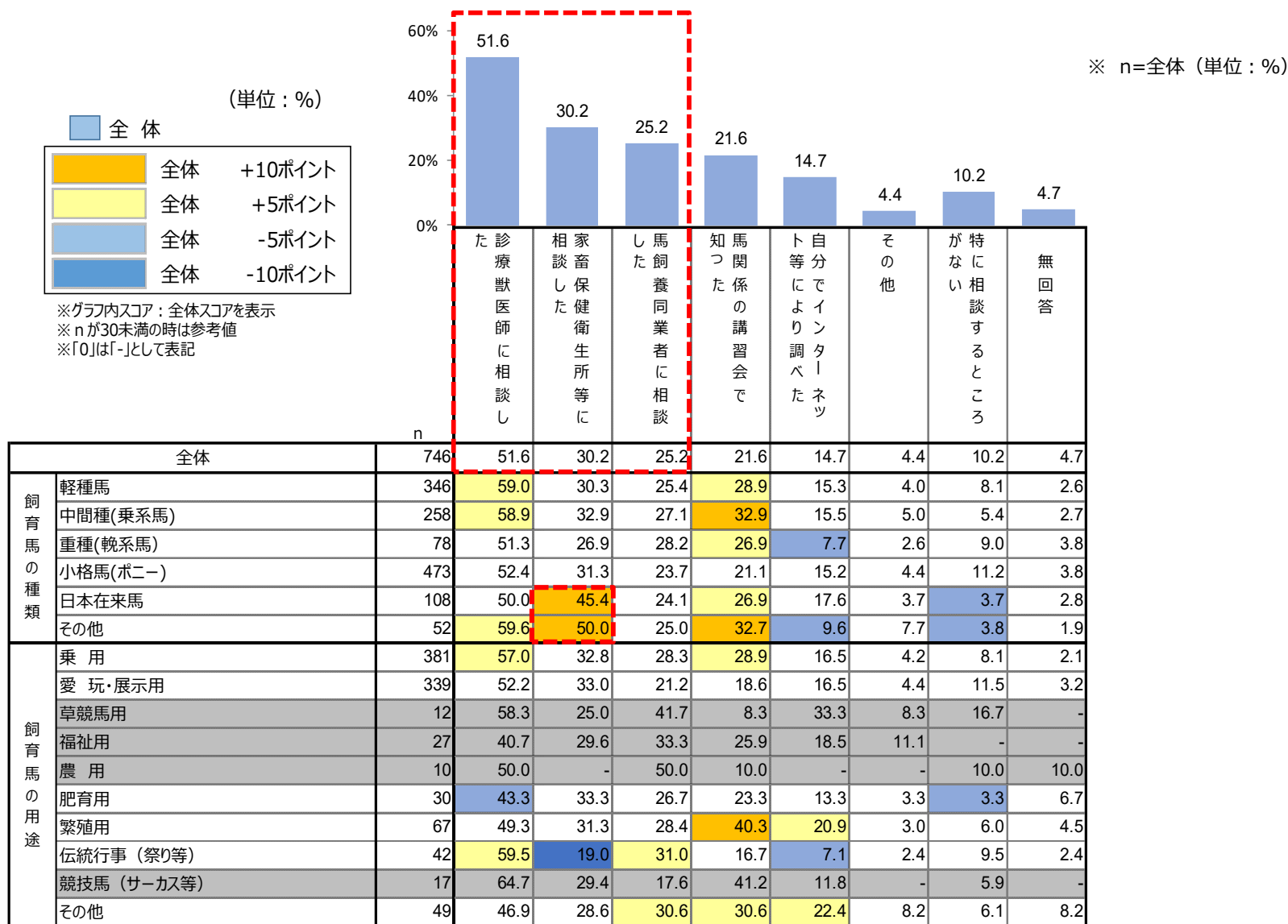
Q3-2-4. 「衛生管理区域」への病原体の侵入防止として、家畜の健康観察が大切ですが、あなたは飼育馬の異常把握をどの程度されていますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）



衛生対策の相談者

- 衛生対策の相談者としては「診療獣医師」が51.6%で特に高く、次いで「家畜保健衛生所等」が30.2%、「馬飼養同業者」が25.2%が続く。
- 種類別・用途別でみると、「家畜保健衛生所等」について『日本在来馬』『種類・その他』が高く、全体を10pt以上上回る。

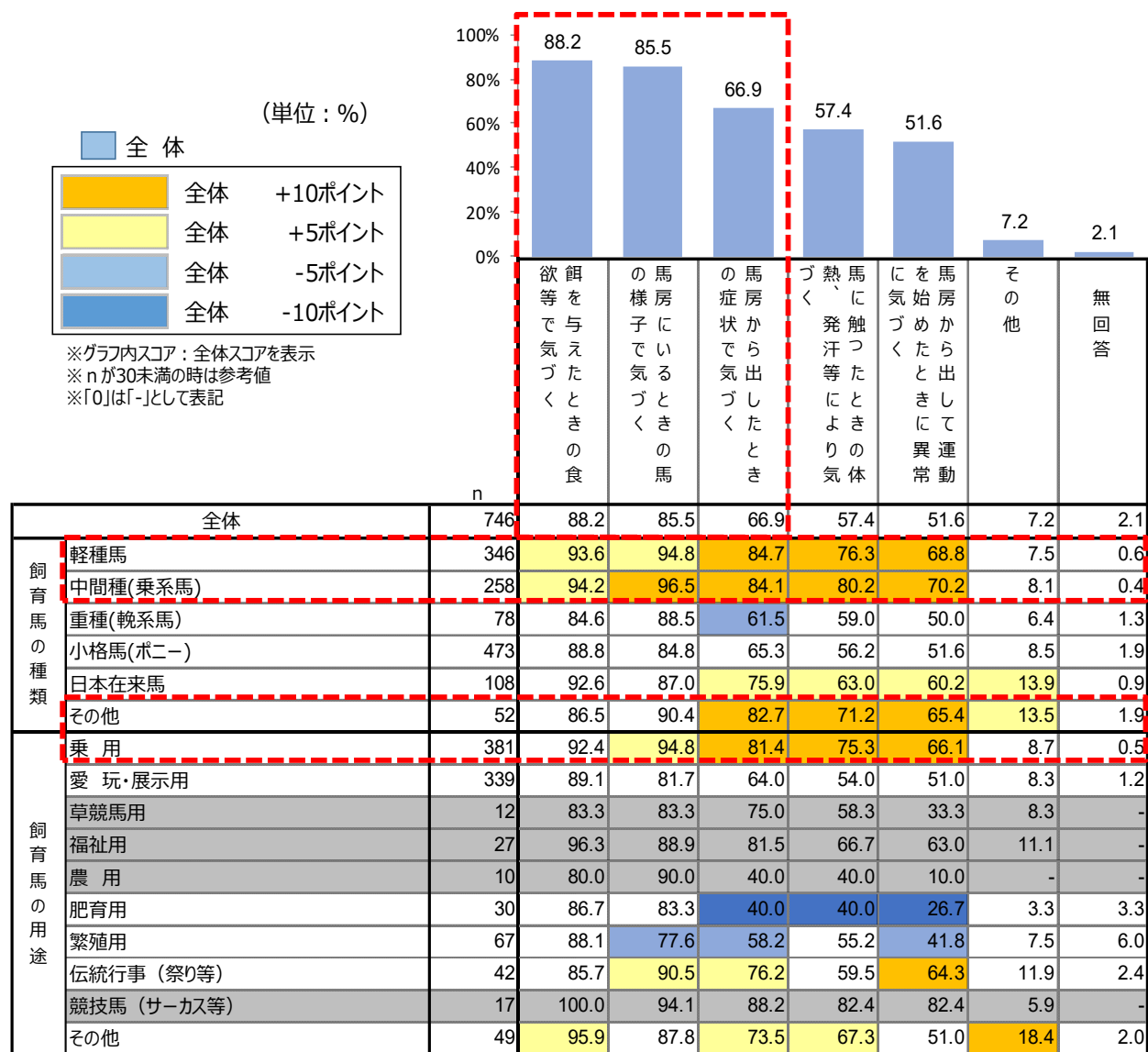
Q3-3. あなたは衛生管理区域等の衛生対策について、どなたに相談しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）



飼育馬の状態異常に気づくとき

- 飼育馬の状態異常に気づくときは「餌を与えたとき」88.2%、「馬房にいるとき」85.5%が特に高く、「馬房から出したとき」66.9%が続く。
- 種類別・用途別でみると、『軽種馬』『中間種』『種類・その他』『乗用』で高い項目が多くみられる。

Q4-1-1. 飼育馬の日常の健康観察についてお伺いします。あなたが、飼育馬の様子がいつもと違うと気づくときの状況について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

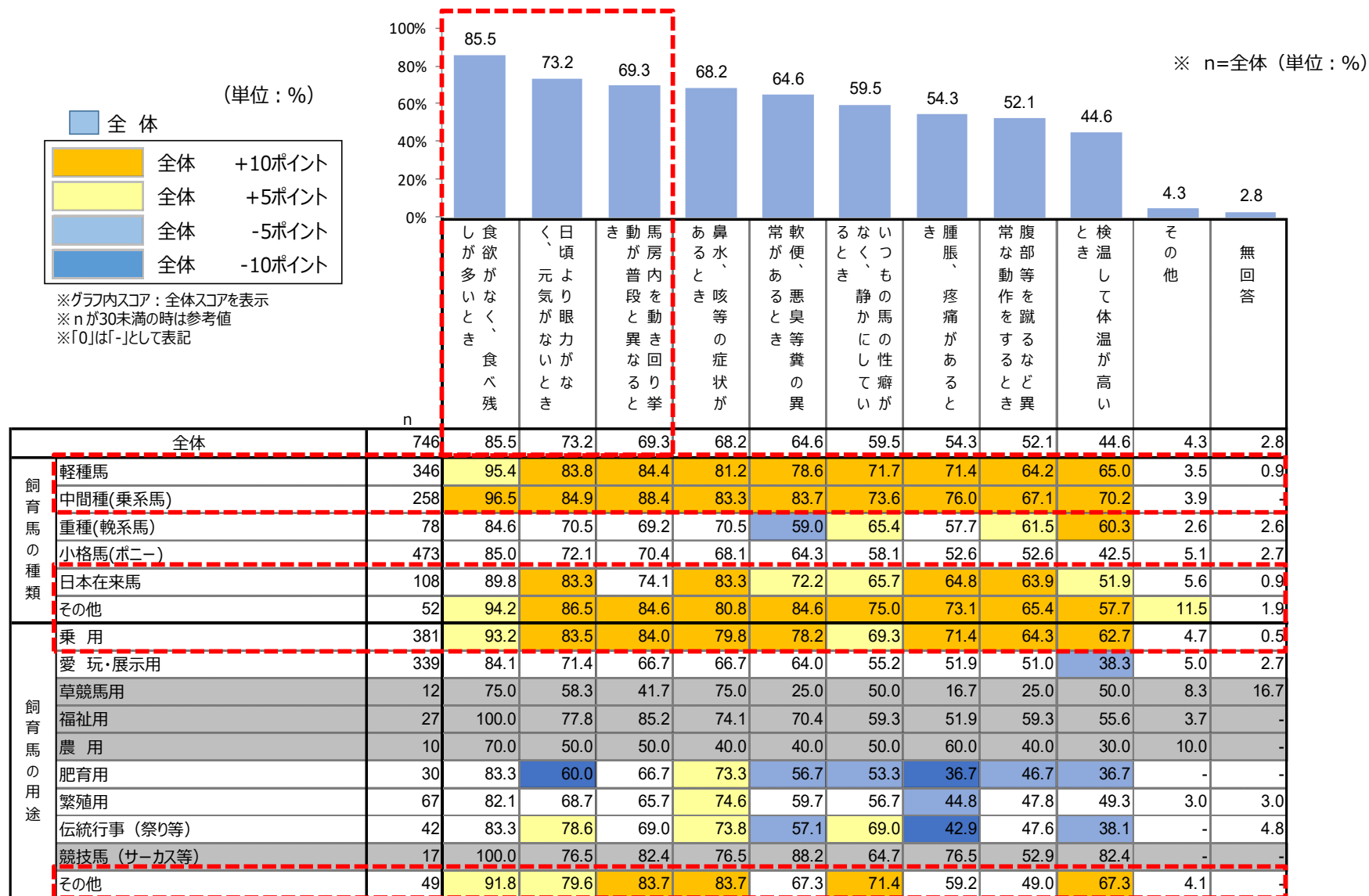


※ n=全体 (単位：%)

異常症状、疾病罹患に気づくとき

- ▶ 異常症状、疾病罹患に気づくときは「食欲がなく、食べ残しが多いとき」が最多で85.5%、「日頃より眼力がなく、元気がないとき」73.2%、「馬房内を動き回り挙動が普段と異なるとき」69.3%が続く。
- ▶ 種類別・用途別でみると、種類は『軽種馬』『中間種』『日本在来馬』『その他』、用途は『乗用』『その他』で高い項目が多くみられる。

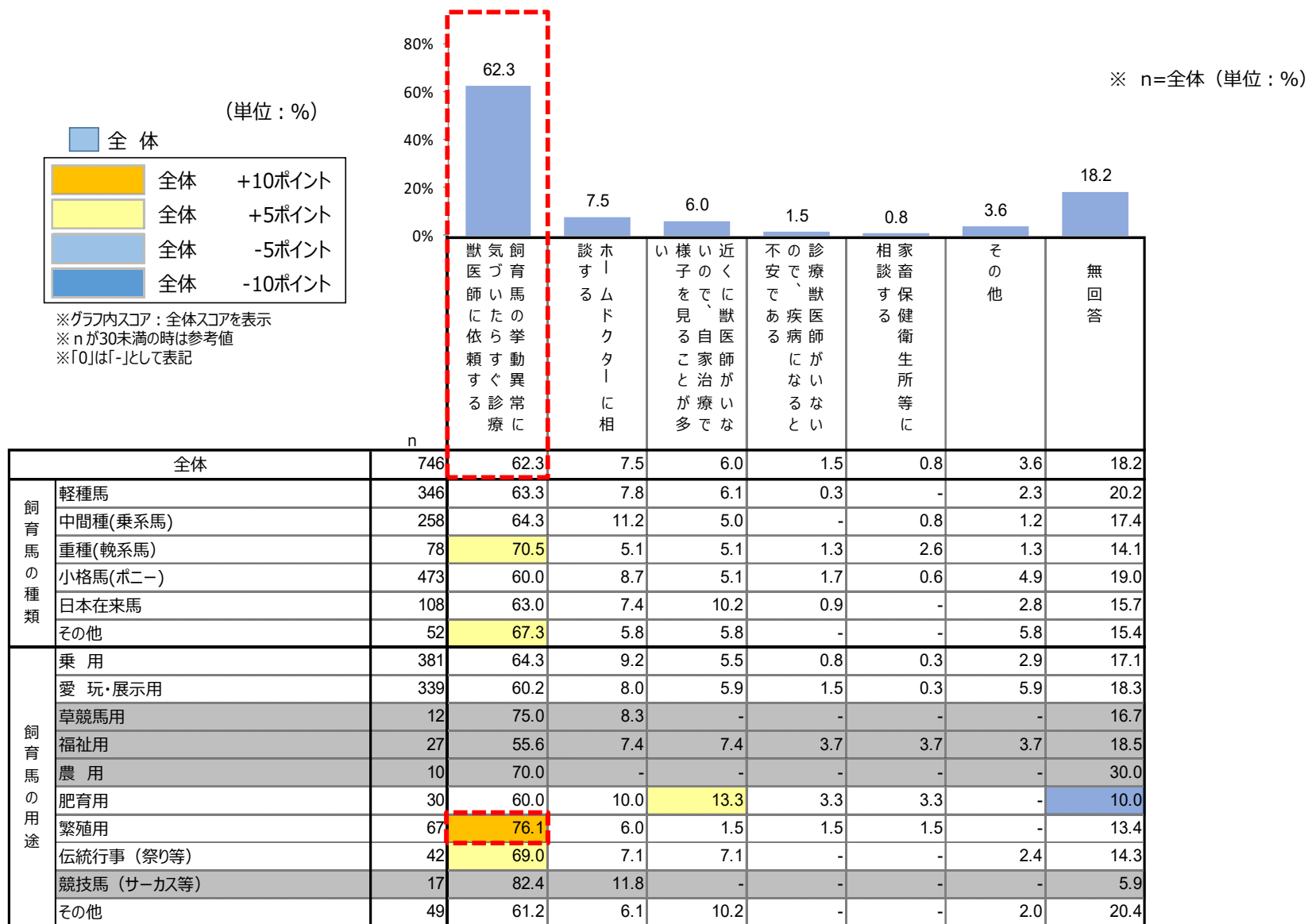
Q4-1-2. 飼育馬の日常の健康観察についてお伺いします。あなたが飼育馬の異常症状、疾病の罹患に気づくときの状況について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）



飼育馬の疾病罹患時の対処法

- 飼育馬の疾病罹患時の対処法は「気づいたらすぐ診療獣医師に依頼する」が62.3%で、他の対処法より群を抜いて高い。
- 種類別・用途別でみると「気づいたらすぐ診療獣医師に依頼する」は『繁殖用』が最も高く全体を10pt以上上回る。

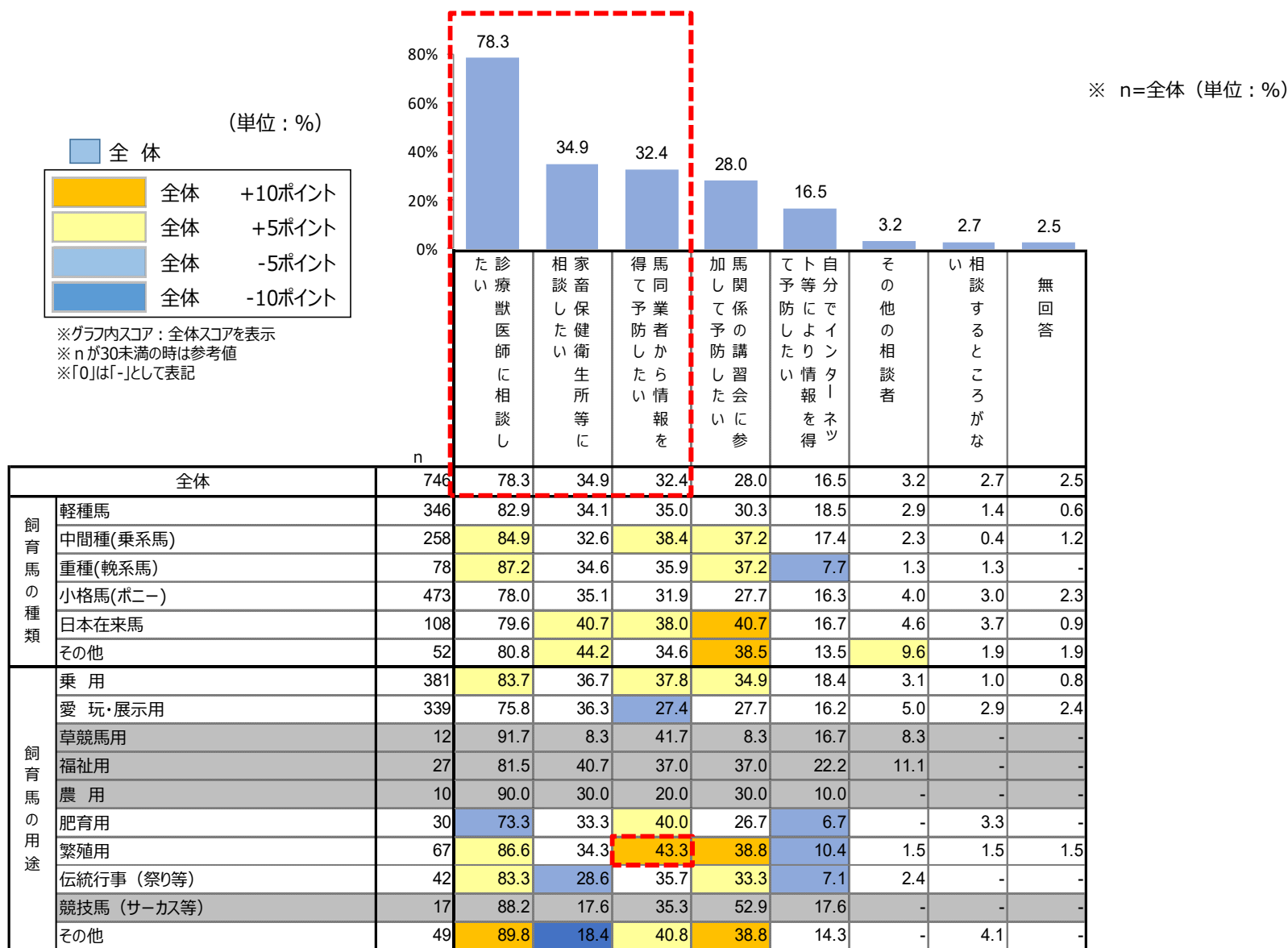
Q4-1-3. 飼育馬が疾病に罹患した時の行動についてお伺いします。あなたの行動にあてはまるものをお選びください。（1つ選択）



馬の疾病等予防対策の相談者

- 馬の疾病等予防対策の相談者は「診療獣医師」が78.3%で特に高く、「家畜保健衛生所等」34.9%、「馬同業者」32.4%が続く。
- 種類別・用途別でみると「馬同業者」は『繁殖用』が最も高く全体を10pt以上上回る。

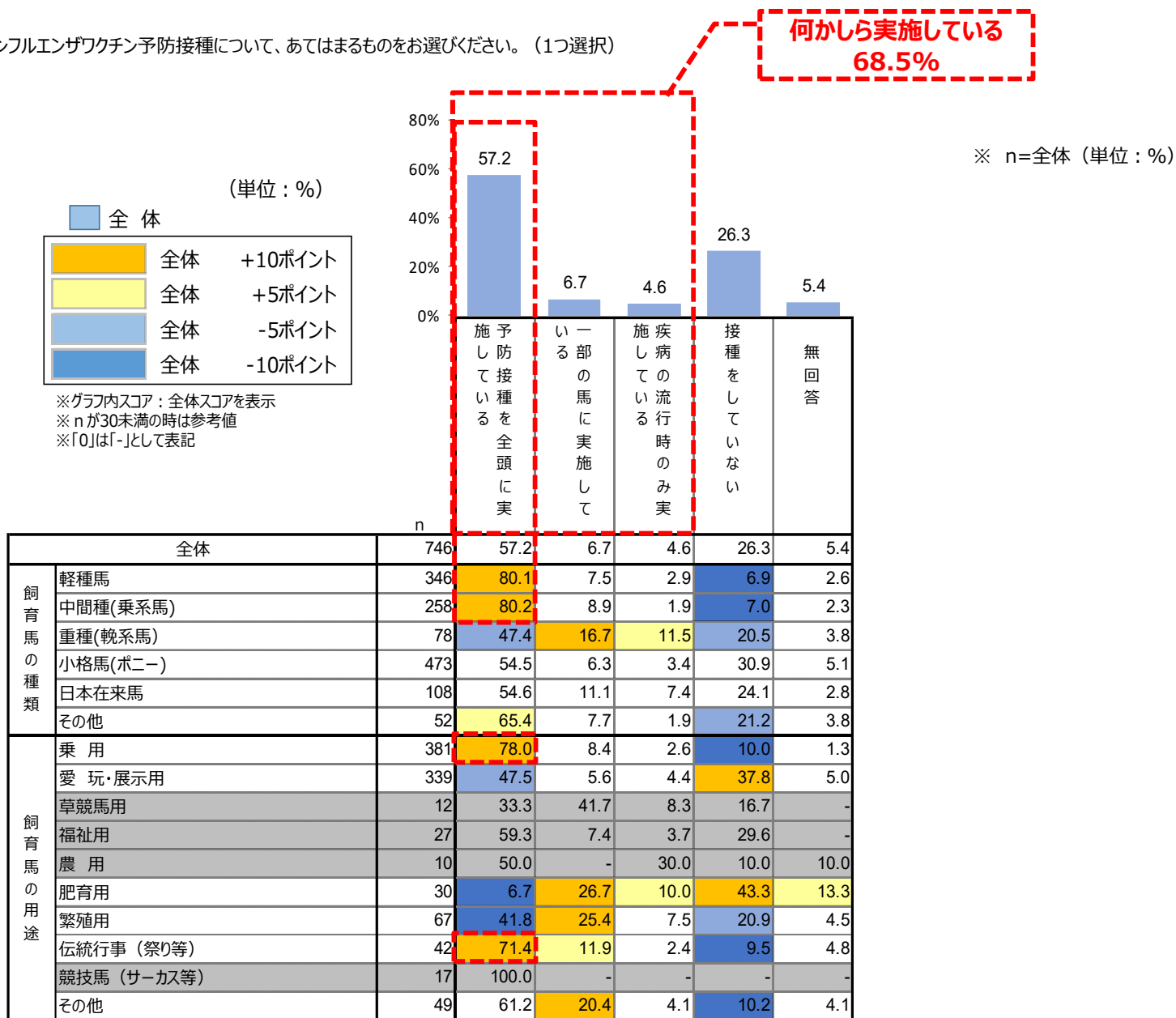
Q4-2. あなたは飼育馬の疾病等予防対策について、今後どなたに相談したいですか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）



馬インフルエンザワクチン予防接種について

- 馬インフルエンザワクチン予防接種は、約7割が何かしらを実施しており、なかでも「予防接種を全頭を実施している」が57.2%で特に高い。
- 種類別・用途別でみると、「予防接種を全頭を実施している」は『軽種馬』『中間種』『乗用』『伝統行事』が高く全体を10pt以上上回る。

Q4-3-2. あなたが飼育馬に行っている馬インフルエンザワクチン予防接種について、あてはまるものをお選びください。（1つ選択）

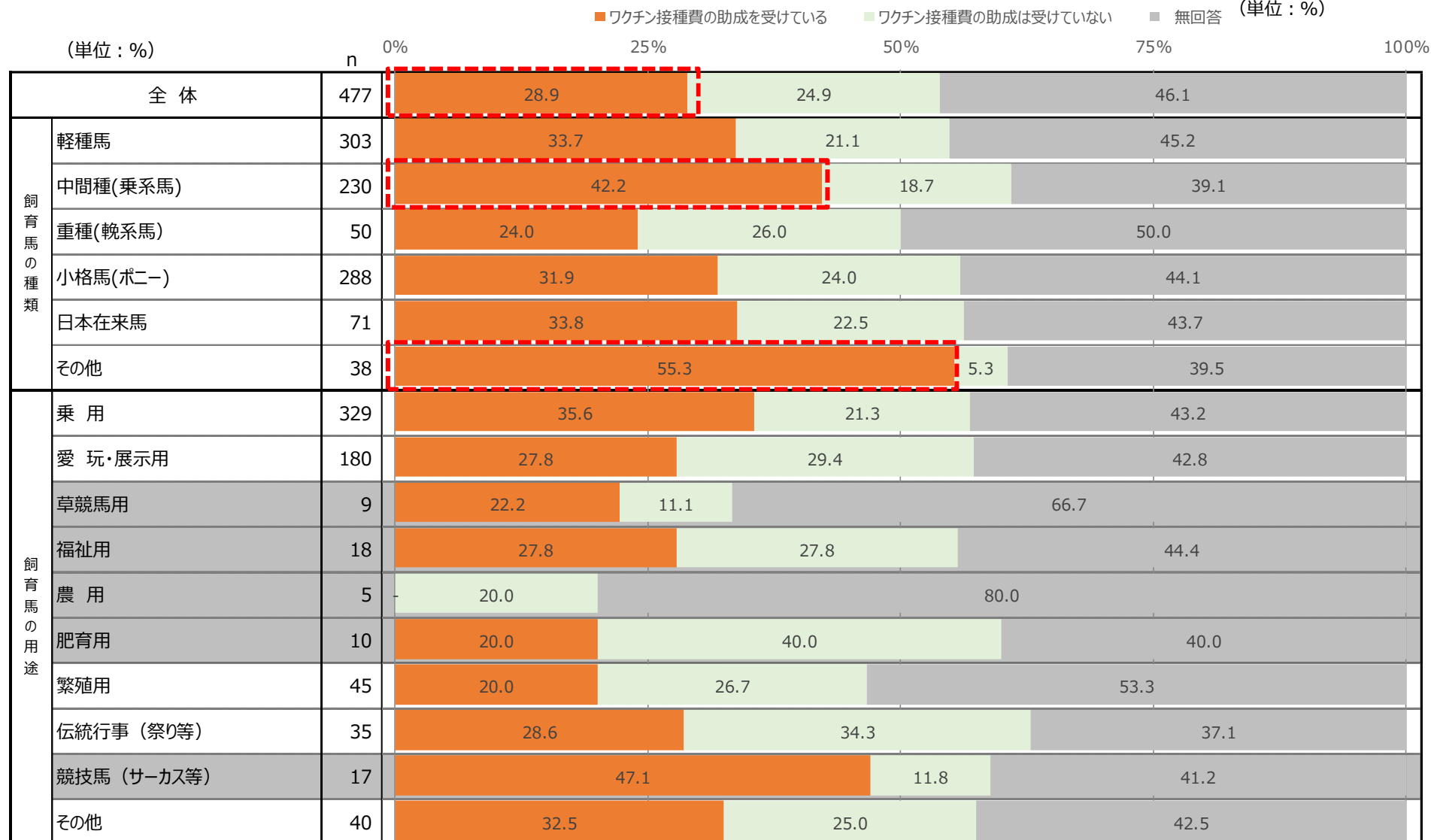


馬インフルエンザワクチン接種費用・助成の有無

- 「馬インフルエンザワクチン予防接種を実施している」と回答したうち、「ワクチン接種費の助成を受けている」は28.9%。
- 種類別・用途別でみると、「ワクチン接種費の助成を受けている」は『中間種』『種類・その他』が高く全体を10pt以上上回る。

Q4-3-2A. <馬インフルエンザワクチン予防接種を実施していると回答した方> ワクチン接種費の助成について、あてはまるものを1つお選びください。(1つ選択)

※ n=馬インフルエンザワクチン予防接種を実施していると回答した方
(単位：%)

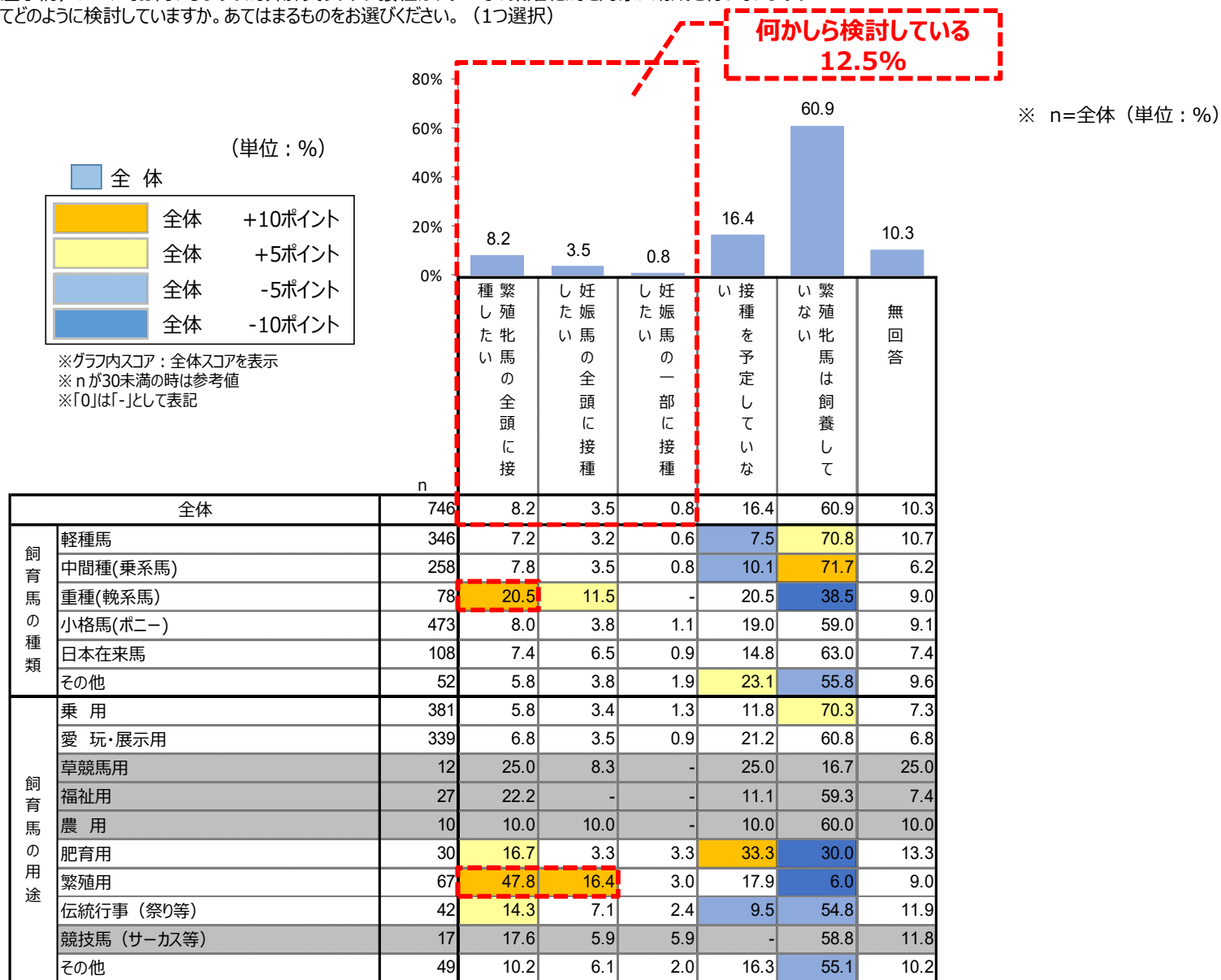


※nが30未満の時は参考値 ※「0」は「-」として表記

馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）の検討度

- 馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）の検討度は、「繁殖牝馬の全頭に接種したい」8.2%、「妊娠馬の全頭に接種したい」が3.5%、「妊娠馬の一部に接種したい」0.8%となり、約1割が検討を希望している。
- 種類別・用途別でみると、「繁殖牝馬の全頭に接種したい」は『重種』『繁殖用』、「妊娠馬の全頭に接種したい」は『繁殖用』が高く全体を10pt以上上回る。

Q4-3-3. 馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）についてお伺いします。馬鼻肺炎ワクチン接種は、すべての繁殖牝馬を対象に助成を行っています。あなたは、本予防接種についてどのように検討していますか。あてはまるものをお選びください。（1つ選択）

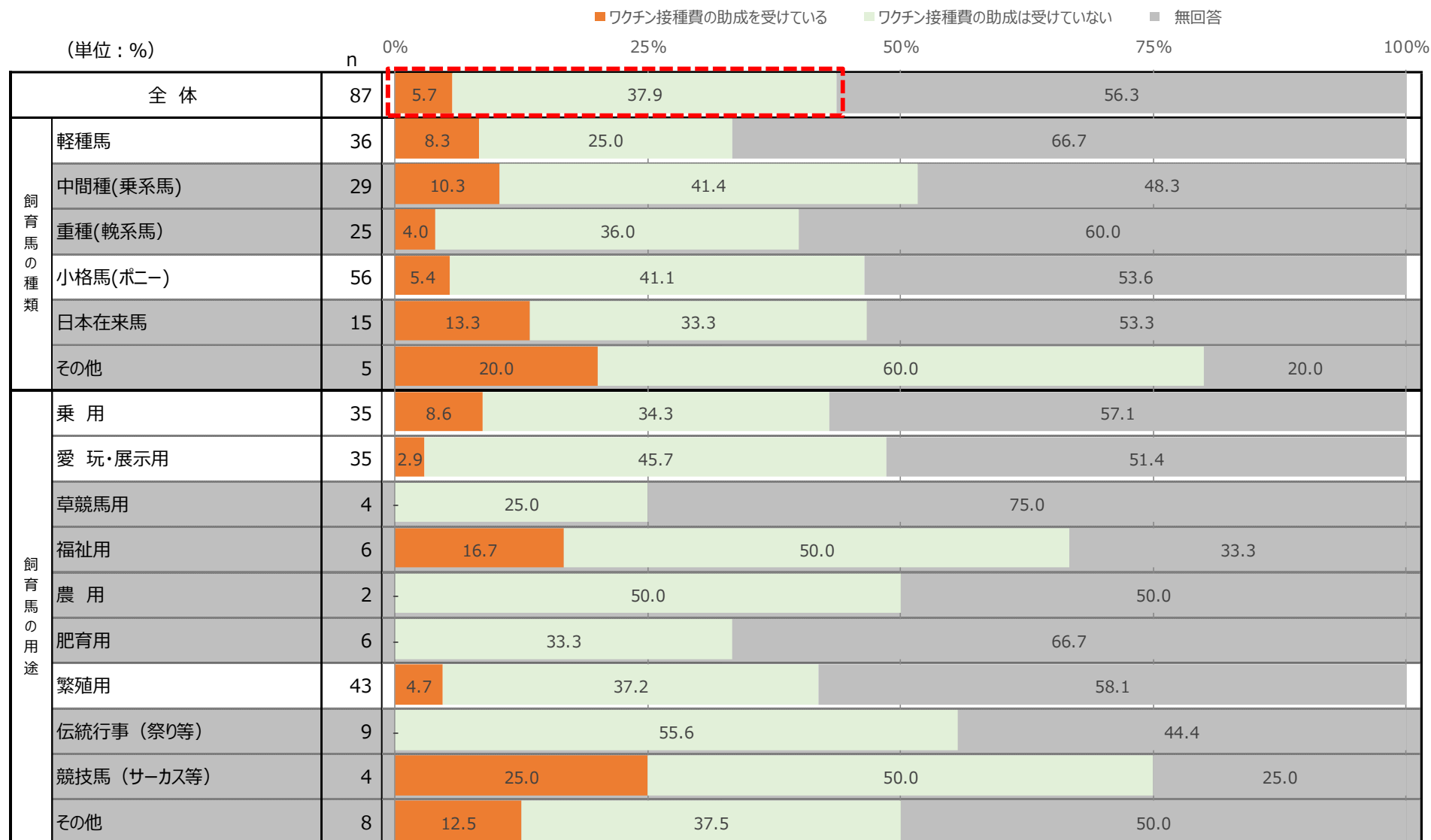


馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）費用・助成の有無

➤ 「馬鼻肺炎ワクチン接種を接種したい」と回答したうち、「ワクチン接種費の助成を受けている」は5.7%、「ワクチン接種費の助成は受けていない」37.9%となり、「助成は受けていない」が「助成を受けている」の6倍以上を占める。

Q4-3-3A. <馬鼻肺炎ワクチン接種を接種したいと回答した方> ワクチン接種費の助成について、あてはまるものを1つお選びください。（1つ選択）

※ n=馬鼻肺炎ワクチン接種を接種したいと回答した方（単位：%）

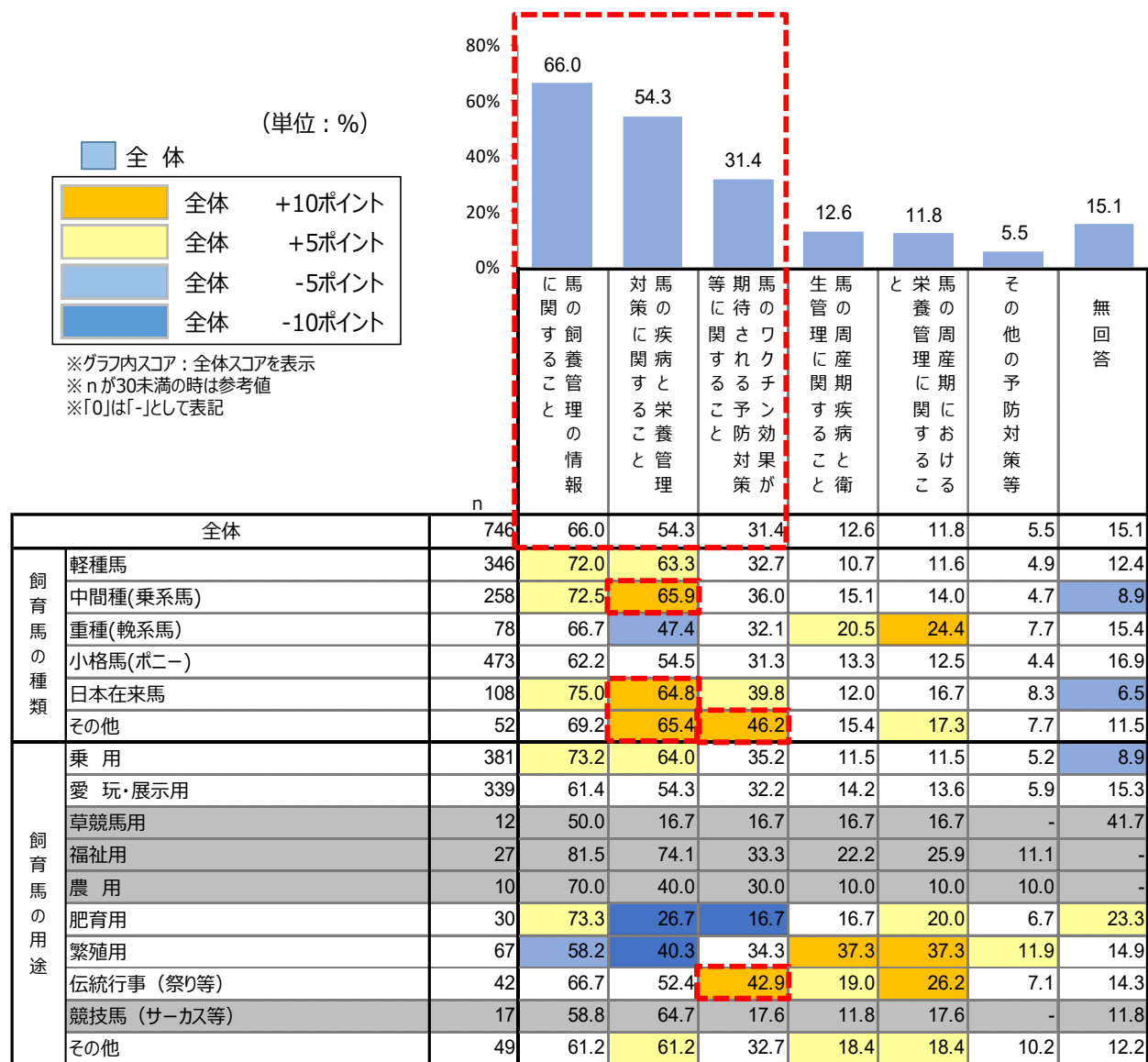


※nが30未満の時は参考値 ※「0」は「-」として表記

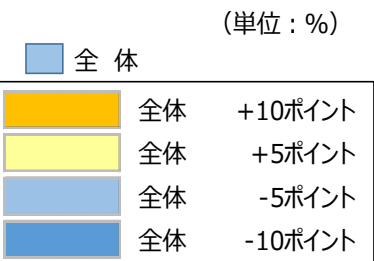
講習会等で希望する予防管理情報

- ▶ 講習会等で希望する予防管理情報は「馬の飼養管理の情報」が66.0%が最も高く、次いで「馬の疾病と栄養管理対策」54.3%、「馬のワクチン効果が期待される予防対策等」31.4%が続く。
- ▶ 種類別・用途別でみると、「馬の疾病と栄養管理対策」は『中間種』『日本在来馬』『種類・その他』、「馬のワクチン効果が期待される予防対策等」はともに『種類・その他』『伝統行事』が高く、全体を10pt以上上回る。

Q4-4-1. 今後の予防管理として、あなたが馬の飼養衛生管理に関する講習会等で希望することについてお伺いします。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）



※ n=全体 (単位: %)



※グラフ内スコア: 全体スコアを表示
 ※nが30未満の時は参考値
 ※「0」は「-」として表記

馬の飼養管理に必要な診断方法と予防対策等

- 馬の飼養管理に必要な診断方法と予防対策等は「跛行の診断」54.3%、「疝痛の診断」53.2%が比較的高く、次いで「皮膚疾患の診断」46.2%が続く。
- 種類別・用途別でみると、『中間種』で高い項目が多くみられる。

Q4-4-2. 「馬の飼養管理の情報に関すること」についてお伺いします。あなたが必要だと思う、講習会等で希望する「馬の飼養管理の情報」をすべてお選びください。（複数回答可）

